

協働の底力。

虎の巻

くらしの未来、未来の地域づくり。

本 編

平成 25 年 3 月



協働の底力組

「協働の底力。虎の巻」 【本編】 目次

序章 はじめに	1
第1章 「協働の底力。虎の巻」の基本的な考え方	2
1 「虎の巻」の目的	
2 「虎の巻」の概要	
3 「虎の巻」の運用	
第2章 「協働の底力組」の取組	3
1 「協働の底力組（協働実行委員会）」について	
2 取組の経緯	
3 「地域別よりあい会」の取組紹介	
4 「地域別くるまざ会」の取組紹介	
5 「現地見学ツアーくるまざ会」の取組紹介	
6 「協働事例発表会」の取組紹介	
7 取組と参加者の“声”	
第3章 協働をはじめる前に	28
1 「協働による地域づくり」のイメージをつかもう（第6回 協働事例発表会の寸劇より）	
2 “まち歩き”でまちの魅力や課題を発見しよう	
第4章 協働事例の紹介	39
1 取材報告（「協働の底力組」が行く）	
2 協働事例	
第5章 協働の“きっかけ”	114
1 生活の安全・安心	
2 少子高齢化委・農山村の担い手不足の解消	
3 地域の活性化	
4 景観や環境の保全	
5 市民のやすらぎと憩い	
第6章 協働の“コツ”	118
1 関係づくりの“コツ”	
2 活動の“コツ”	
3 地域づくりの“コツ”	
4 人材集めの“コツ”	
5 人材育成の“コツ”	
6 行政の視点から協働を円滑に進めるための“コツ”	
7 ワークショップの進め方の“コツ”	
第7章 “地域づくり”における協働のあり方	126
1 「協働の目指す姿」とは	
2 “目指す姿”と現実のギャップを埋めるために必要なこととは	
終章 おわりに	135
1 「協働の底力。虎の巻」の充実に向けた今後の取組	
2 「虎の巻」に関する意見や情報提供のお願い	

序章 はじめに

近年、本格的な少子高齢化や人口減少など社会・経済情勢が急速に変化する中においても、県民の安全・安心を支え、地域の産業や人と物資の交流を進めるとともに、美しい自然環境を保全していくためには、絶え間ない社会資本の整備が必要になります。

その一方、平成 21 年度に実施した県政世論調査の結果によると、清掃活動や自然保護などの環境保全活動に参加する県民は増加傾向にあり、“地域づくり”や“環境保全”などに高い関心を持つ県民が増えています。

こうした状況にあって、社会資本の整備を効率的かつ効果的に進めるとともに、多様化・高度化する県民ニーズに柔軟に対応するため、県交通基盤部では、「いっしょに、未来の地域づくり。」を基本理念に掲げ、誰もが暮らしやすい“ふじのくに”の実現に向けて、地域やNPO、企業、学校などの方々と行政との「協働」に取り組んでいます。

これまでも、本県では様々な協働による“地域づくり”が進められてきましたが、その手法は、地域や事業の特性などで異なり、試行錯誤しながら進めているのが実情でした。

このため、地域づくりの主役である市民や行政職員が協働に取り組む際に活用できるように、協働の参考書としての「協働の底力。虎の巻」を作成することにしました。

この「虎の巻」は、NPOなどで活躍される市民の方々と交通基盤部を中心とした県職員で組織された「協働の底力組（協働実行委員会）」に依頼し、作成したものです。「協働事例発表会」や「地域別くるまざ会（意見交換会）」など、「底力組（実行委員）」が協働による“地域づくり”を広げるために取り組んできた過去 6 年間の経験や蓄積を生かしながら、「虎の巻」の内容について、議論を重ねていただきました。

こうして作成された「虎の巻」には、協働の基礎知識に加え、これまでの取組事例から培った“コツ”や“ノウハウ”、具体的な協働の取組事例などが紹介されています。

本「虎の巻」が、県民が主役となった魅力ある地域づくりの“輪”を県内各地に広げていく一助となることを期待しています。

なお、この「虎の巻」は、平成 22 年度版として作成したものです。今後、県民の皆さんからのご意見をいただくとともに、「底力組」での議論を重ねていただきながら、さらに内容の充実を図っていきたいと考えております。

最後に「虎の巻」の作成をお願いした「協働の底力組」の皆さんに、この場をお借りして感謝を申し上げます。

平成 23 年 3 月

静岡県交通基盤部

第1章 「協働の底力。虎の巻」の基本的な考え方

1 「虎の巻」の目的

協働による“地域づくり”は、地域や事業の特性などで内容や手法が異なり、取組ごとに試行錯誤しながら進めているのが実情です。

そこで、地域づくりの主役である市民が協働に取り組む際に活用できるよう、協働に関する基礎知識に加え、これまでの取組事例から培った協働の“コツ”や“ノウハウ”を紹介するとともに、具体的な取組事例などを取りまとめた「虎の巻」を作成しました。

その目的は、次のとおりです。

協働による“地域づくり”の参考書とする

協働の“意識”を啓発し、協働に関わる人の教材とする

本「虎の巻」を活用してもらうことで、協働による“魅力ある地域づくり”の輪がさらに大きく広がることを期待しています。

2 「虎の巻」の概要

協働に関する予備知識や基礎知識に加え、協働の“コツ”や“ノウハウ”さらには具体的な取組事例等を紹介しています。

また、社会資本整備の「構想・計画」づくりから工事完了後の「維持管理・利活用」に至る全ての段階における協働の基本的な考え方や進め方、留意事項等も分かりやすく紹介するなど、県民主体の“魅力ある地域づくり”を支援するものです。

3 「虎の巻」の対象

協働は様々な分野で展開されていますが、この「虎の巻」は、道路、河川、港湾、空港、まちづくり、公園、農山村、森林などの社会資本の整備や維持管理、利用・活用における協働を中心に作成したものです。

第2章 「協働の底力組」の取組

1 「協働の底力組（協働実行委員会）」について

県民と行政が一体となって“魅力ある地域づくり”に取り組んでいる事例を用いて、協働事業を普及・啓発するため「協働事例発表会」を開催することになり、平成16年度に「協働の底力組」が組織されました。

この「底力組」のメンバーは、NPOなどで活躍される県民の方々と行政職員（交通基盤部を中心とした県の職員）で構成されています。

NPOと行政のそれぞれ異なる資源や情報、ノウハウ、ネットワークをこの「発表会」の開催に生かすとともに、「発表会」までの企画や準備、運営、評価などの過程も協働作業で実施できるよう「実行委員会方式」で活動しています。

実行委員会方式で「発表会」の企画を議論する中で、さらに協働事業を普及・啓発するための提案から「地域別意見交換会（よりあい会、くるまざ会）」の取組が始まりました。「底力組」では、こうした「発表会」や「意見交換会」の企画・運営を行うほか、協働の推進方針等についても検討を行っています。

2 取組の経緯

平成16年度から始まった取組は、「底力組」での“ふりかえり”会議やアンケート結果の分析を通じて、緩やかなPDCAのサイクルを繰り返しながら、年々活動を広げています。

平成17年度からは、協働による“地域づくり”を広げていくためには、行政内部からの意識改革が大切であるとの視点に立ち、県・市町等行政職員の協働に関する情報の共有化と連携強化、意識啓発、スキルアップを図るための意見交換会「よりあい会」を実施しています。

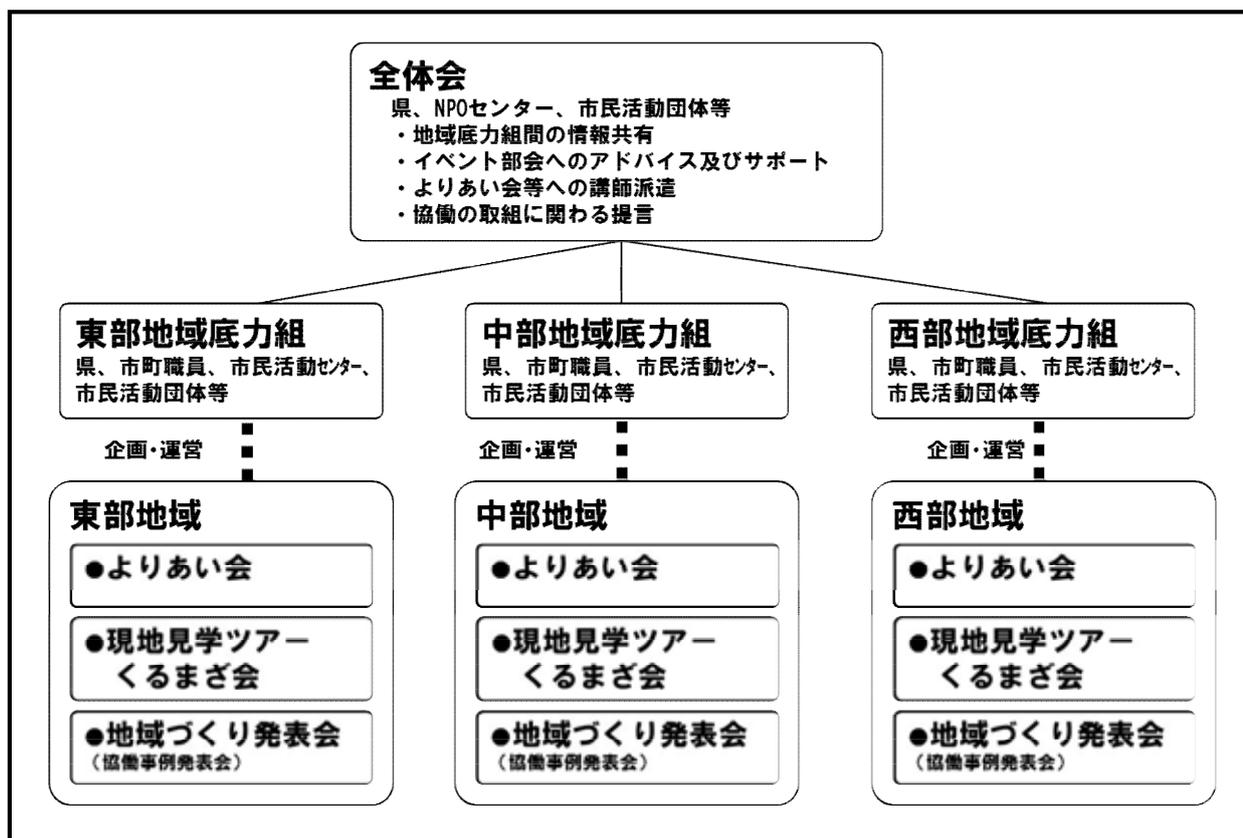
また、平成18年度からは「年1回の発表会だけでは、協働は浸透していかないのではないか」「静岡市だけで開催していたのでは、東部、西部の参加者が出席できないのではないか」との意見から、県の東・中・西部の3地域で、協働事例の紹介、県民やNPOの方々と行政が多様な立場から取組の工夫や課題などについて話し合い、情報共有と信頼関係の構築を図るための意見交換会「くるまざ会」を実施しています。

さらに、平成20年度からは「会議室の中で話し合うだけでは、協働による“地域づくり”の魅力やその取組の具体的な課題が分からない」との意見から、協働の取組現場を実際に訪問する意見交換会「訪問・体験型くるまざ会」を開催しています。

平成21年度には、企業のCSR(社会的責任)の一環として地域貢献活動に取り組む企業を訪問し、地域と企業のつながりを考える「企業訪問型くるまざ会」を開催するなど、協働による“魅力ある地域づくり”の実現に向け、少しずつ取組を拡充しています。

平成16年度	協働事例発表会 実行委員会		
平成17年度	よりあい会	協働事例発表会	実行委員会
平成18年度	よりあい会	くるまざ会	協働事例発表会 実行委員会
平成19年度	よりあい会	くるまざ会	協働事例発表会 実行委員会
平成20年度 平成21年度	よりあい会	くるまざ会	訪問・体験くるまざ会 協働事例発表会 実行委員会
平成22年度	よりあい会	くるまざ会	訪問・体験くるまざ会 協働事例発表会 実行委員会、「協働の虎の巻」の作成
平成23年度	よりあい会	現地見学ツアー-くるまざ会	協働事例発表会 実行委員会
平成24年度	よりあい会	現地見学ツアー-くるまざ会	協働事例発表会 協働底力組、今後の方針 各地域底力組（イベント部会） 全体会

H24 協働の底力組(協働実行委員会)の実施体制



3 「地域別よりあい会」の取組紹介

県・市町等行政職員の協働に関する情報の共有化と連携強化、意識啓発、スキルアップを図ることを目的に、県内東部・中・西部の3地域で開催しています。

構成：市町、土木事務所、特設事務所、農林事務所、県民生活課 NPO 班、交通基盤部の関係課、「協働の底力組（協働実行委員会）」

主な内容：

- 協働に関する講演
- 県・市町の取組事例の紹介
- 協働の課題についての意見交換



中部よりあい会



西部よりあい会

4 「地域別くるまざ会」の取組紹介

多様な立場から取組の工夫や課題などについて意見交換し、情報共有と信頼関係の構築を図ることを目的に、県内東部・中・西部の3地域で開催しています。

構成：県民、NPO 等地域活動団体、NPOセンター、企業（大学）、市町、県民生活課 NPO 班土木事務所、特設事務所、農林事務所

主な内容：

- 協働の取組事例紹介
- 協働事例を通じての“気づき”や“学び”をグループ発表
- 協働の取組やその課題についての意見交換



東部くるまざ会



中部くるまざ会

5 「現地見学ツアーーくるまざ会」の取組紹介

協働の取組現場を実際に訪問し、その取組の具体的な課題や解決策を探るとともに、参加者同士の交流を深めることを目的に、開催しています。

構成：県民、NPO 等地域活動団体、NPOセンター、企業（大学）、市町
県民生活課 NPO 班 土木事務所、特設事務所、農林事務所

主な内容：

協働の取組現場の見学

協働活動の体験

協働の取組に係る具体的な課題やその解決策についての意見交換



6 「協働事例発表会」の取組紹介

協働による“魅力ある地域づくり”を進めるため、協働事業の県民への普及・啓発、情報の共有化・協働ネットワークの形成を図ることを目的に、静岡市内で年1回、開催しています。

対 象：協働による“地域づくり”に取り組んでいるまたは、関心を寄せている県民やNPO、企業、学校、行政など

主な内容：

協働による“地域づくり”の取組事例紹介
 協働の“輪”を広げる！交流会
 パネルディスカッション



「やすのりバンド」によるオープニング演奏様子



旗揚げアンケートの会場の様子



協働のイメージを伝える“寸劇”



県内各地の協働による“地域づくり”の取組紹介



発表団体へのインタビュー



パネルディスカッション

詳しくは、静岡県交通基盤部HP「協働のひろば」をご覧ください。

静岡県交通基盤部HP「協働のひろば」
<http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/index.html>

協働のひろば

検索

7 取組と参加者の“声”

「協働の底力組」(協働事例発表会実行委員会)

構成：民間委員 9 名、県職員 12 名



第2回実行委員会(平成20年10月17日)

本年度の協働事例発表会は、“みんなで奏でるまちづくり”をテーマに、楽しく協働のうまいくい“コツ”を探りましょう。

「地域別よりあい会」(東部・中部・西部の3地域で各1回開催)

対象：県・市町の行政職員

参加者数：72名(東部25名、中部21名、西部26名)



小野寺委員(底力組)による協働の頭の体操

「協働」とは何か、県民に分かりやすく伝えるため、15文字以内シンプルに考えてみましょう。

「協働」とは・・・

- ・目標に向かって みんなで地域づくり
- ・みんなで楽しくやらざあ
- ・目標に向かって 楽しく共感

【参加者の声】

「協働」は県民の皆さんと目標を決め、プロセスを大切にしながら、“楽しく”進めることが大切であることを学びました。



中部よりあい会(平成20年9月12日)の様子

「地域別くるまざ会」(東部・中部・西部の3地域で各1回開催)

対象：県民、NPO等地域活動団体、県・市町の行政職員

参加者数：140名(東部62名、中部47名、西部31名)



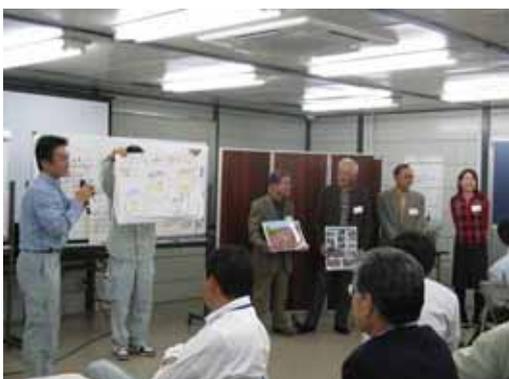
協働事例の発表「麻機湿原を保全する会」

麻機湿原の保全活動が認められ、環境大臣より表彰を受けました。
自然環境は、学者や専門家だけでは守っていきけません。「地域で守っていく」ことが大切です。



コーディネーターの五味委員(底力組)

協働の事例発表を聞いて分かった「活動の良いところ、参考になったところ」を出し合い協働がうまくいく“コツ”を探りましょう。



中部くるまざ会グループ発表(平成20年10月31日)

協働は、将来の地域づくりの担い手である子どもたちと一緒に取り組むことが大切。
子どもたちが、楽しめる“工夫”が必要だと思います。

【参加者の声】

- ・誰もが、仲間と楽しく地域に役立ちたいと考えていることを知り、感心しました。
- ・活動を楽しみ続けしていくことの大切さ、そういった“意識”や“やる気”をもらいました。
- ・参加団体の皆さんが地域それぞれの特性に応じて頑張っていることを強く感じました。

「訪問・体験型地域別くるまざ会」(伊豆市・御前崎市・新居町(現湖西市)で各1回開催)

対象：県民、NPO 等地域活動団体、県・市町の行政職員

参加者数：111名(伊豆市46名、御前崎市30名、新居町35名)

「新居関所周辺まちづくりの会」(新居町)



「新居関所周辺まちづくりの会」などの方から新居関所周辺の歴史文化を生かした“まちづくり”を紹介していただきました。



町で開催したワークショップの結果、“まち”の景観を復元するために、歴史的建造物である「小松楼」の保存活用の取組を進めています。



【現場を見学した参加者の意見】

- ・いろいろな年代、いろいろな分野の方が楽しみながら活動しているのが良い。
- ・おもてなしの心でまちづくりをしているのが素晴らしいと思う。

【参加者の声】

- ・「まちづくりの会」の皆さんが海、湖に生き、自然と共に協働しているように感じました。
- ・新居の関所や小松楼などの歴史文化を生かした“まちづくり”の様子が分かるとともに、「まちづくりの会」の“おもてなし”の心を感じることができました。参加して良かったと思います。

「御前崎エコクラブ」(御前崎市)



桜の植え付け方法を学びました



参加者全員で桜を植えました



活発な意見交換が行われました

【現場を見学した参加者の意見】

- ・ 地域や学校との交流の輪が広がっている。
- ・ 木材チップなどの有効活用でコストの縮減を図っていることが素晴らしい。
- ・ 建築士や大工などの専門家が参加することで、幅広い活動を実現している。



御前崎エコクラブの山本代表に
今後の抱負を語っていただきました。

できることをできる人が持ち寄って活動している。今後も多くの方に知恵をもらいながら、“楽しく”“しあわせ”に活動していきたいと思います。

【参加者の声】

- ・ こうした活動をもっと多くの県民に知ってほしい。
- ・ 協働に取り組んでいる県民と行政職員の本音の意見交換が良かったと思います。
- ・ 実際に植樹を行い、さし木が将来大きく育つことを楽しみにすることができました。山本会長の「自分の土地は自分で管理する」という言葉が印象的に残りました。

「萬城の滝周辺整備協働の会」(伊豆市)



萬城の滝



間伐材で造った手づくりの遊歩道



「くるまざ」になっての意見交換

【現場を見学した参加者の意見】

- ・滝や溪流など美しい自然環境を生かした活動が素晴らしい。
- ・建設や造園、森林などの専門分野の人を巻き込んだことで整備が充実している。
- ・協働の楽しさが分かった。



萬城の滝周辺整備 協働の会の飯田代表に今後の抱負を語っていただきました。

“心”という字が1画1画でバランスをとっているように、萬城の滝の取組も、それぞれの立場の人が力をバランスよく出し合って盛り立てていきたいと思えます。

【参加者の声】

- ・多くの“おもてなし”の“心”をいただきました。
- ・他の団体の皆さんの意見が聞けて良かった。
- ・県民(NPO) 行政だけでなく企業にも参加してほしい。

「第5回協働事例発表会 / 協働の底力。」

日 時：平成21年1月25日（日曜日）10時30分～16時30分
 場 所：静岡市生涯学習センター アイセル21（静岡市葵区）
 参加者：約250人（民間110人、行政140人）

・ 寸劇



「協働の底力組」が“川づくり”をテーマに、協働の取組の流れを、フィクションを交ながら、寸劇で分かりやすく紹介しました。

・ 県外の協働事例発表



矢作川水系森林ボランティア協議会の丹羽代表

2005年頃より民主性と公開性を大事に活動しており、“素人だからといって恐れるな、素人だからこそ威張れ”や“楽しく、少しためになる”をモットーに活動しています。

・ 県内の協働事例発表



下田高校周辺地域交通環境検討会

高校周辺の安心・安全な通学路づくりを、ソフト・ハードの両面から地域・企業・行政が一緒に取り組みました。こうした活動を通じて、高校生と地域の“つながり”も生まれています。



萬城の滝周辺整備協働の会

「住んでよし、訪れてよし」の“まちづくり”を目指し、地域住民が主体となり建設・造園・森林などの専門家や行政を巻き込んで、活動に取り組んでいます。



静岡・海辺づくりの会

訪れる皆さんの心に残る“次世代に誇れる美しい海辺づくり”を目指し、地域住民と行政で共に取り組んでいます。



みさくぼ大好き応援団推進協議会

中山間地の住民団体と都市部のNPOが連携し、浜松市天竜区水窪町の森をモデルとした「森林環境の保全・管理・活用について共に支えあう仕組みづくり」に取り組んでいます。

また、間伐材を利用した絵馬の製作を障害者授産所に依頼するなど、活動を福祉の分野にも広げています。



上倉沢棚田保全推進委員会

今年度、静岡県景観賞の優秀賞を受賞しました。

棚田を保全し、次世代に残していくことを目的に、地域住民やボランティア、学校、企業、行政が連携して取り組んでいます。



新居関所周辺まちづくりの会

国内に唯一現存する関所とその周辺の伝統ある街並みを保存するために、“まちづくり”の担い手育成や“まちづくり”に関心をもってもらう取組を地域住民と新居町が一緒になって取り組んでいます。

・ 講評（静岡大学人文学部 日詰教授）

資源を生かす市民の知恵

「各団体の発表から、静岡にある様々な資源をより一層生かしていくために、市民、NPO が“創造性・遊び心・専門性・連携”などの知恵を持ち寄っている点が素晴らしいと感じました。」

未来の人材育成（学校教育との連携）

「下田高校の事例から、高校生の主体性を大切にする方法を再認識しました。このように、これからの将来を担う子どもたちが関わってくると、10～20年後を担う人材が育まれ、取組がより魅力あるものになると感じます。子ども達には地域の素晴らしさに触れ、豊かなアイデアや地域を愛する心を育んでもらいたい。」

文化資源を生かし新たな宝物づくり

「上倉沢の事例から、文化資源を生かしたまちづくりの方法を学びました。古くなった文化資源も、そこだけに留めず大きなものにして再活用し、新しい価値・宝物を生むことが大切です。」



・パネルディスカッション



「協働が進化する“コツ”を探る
～協働の地域主体化に向けて～」を
テーマに協働が進化する“コツ”に
ついて意見交換しました。

・クロージング（全体のまとめ）

【静岡大学人文学部 日詰教授より】

地域の取組として

地域の宝を生かすためにどうすればいいか、様々な課題を拾い出して、再発見することが必要です。

他団体とのつながり

メッセージを発信して世論にアピールしていくことが大事です。情報をキャッチしやすい社会になり、関わりたい方も増えていると思うので、エリアを越えた交流やつながりもできるようになると思います。

行政との協働

裁量性、柔軟性をもって行政も取り組んでほしいと思います。情でなく、提案型・提言型にして、行政を振り向かせるような行動をしていきましょう。

「協働の底力組」(協働事例発表会実行委員会)

構成:民間委員 13名、県職員 11名



第3回実行委員会(平成21年11月11日)

本年度は、“いっしょに、未来の地域づくり”をテーマに、企業も巻き込んだ“協働による魅力ある地域づくり”を考える「くるまざ会」や「協働事例発表会」を開催しましょう。

「地域別よりあい会」(東部・中部・西部の3地域で各1回開催)

対象:県・市町の行政職員

参加者数:108名(東部44名、中部31名、西部33名)



野村委員(底力組)によるNPOに関する講演(平成21年9月29日 東部よりあい会)

「社会的な役割や使命を担いたい」という市民やNPOが増えていきます。これからの行政は、こうした市民の“声”に耳を傾け、それを生かしていくことが必要です。



藤枝市による「まち美化里親制度」の紹介(平成21年9月24日 中部よりあい会)

藤枝市では、「まち美化里親制度(アダプト・プログラム)」により、まちの美化活動に取り組む市民を支援しています。市民の関心も高く、参加団体は年々増加しています。

「地域別くるまざ会」(東部・中部・西部の3地域で各1回開催)

対象：県民、NPO等地域活動団体、県・市町の行政職員

参加者数：120名(東部47名、中部45名、西部28名)



協働事例の発表「NPO みなと・まち育て田子浦」

田子の浦港の緑地公園を舞台に、安らぎと憩いのある“公園づくり”“まちづくり”を展開しています。
日本一美しい富士山を背景にしたイベントも開催しています。



協働事例の発表「塩満行こう(ECO)運動推進会(塩満自治会)」

町ぐるみで温暖化の防止対策に取り組んでいます。
賛同してくれる“仲間づくり”が重要です。



東部くるまざ会グループ発表(平成21年11月15日)

地域以外の人を巻き込むことが大切です。“まち”の魅力の再発見につながります。
若者のアイデアには、大きなパワーがあると思います。“まちづくり”には、若い人の参加が不可欠です。

【参加者の声】

- ・ いろいろな地域の“まちづくり”の取り組みを聴いて、“ワクワク”しました。
- ・ いかに地域の人を巻き込んでいくか、その“努力”が大切だと感じました。
- ・ 考える人、段取りする人、実働する人、それぞれ得意なことをやって重くなりすぎないようにすることが、長続きするための“コツ”だと思います。

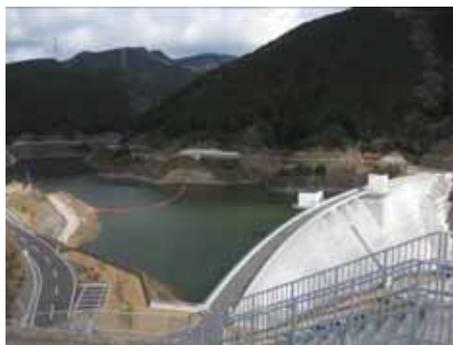
「訪問・体験型地域別くるまざ会」(富士市・焼津市・森町で各1回開催)

対象：県民、NPO 等地域活動団体、県・市町の行政職員

参加者数：123名(森町43名、焼津市46名、富士市34名)

・知恵を出し合い、学び合うくるまざ会 in 森町

「太田川ダム、森町体験の里アクティ森」(森町)



平成21年11月に完成した「太田川ダム」



休耕田や里山の見学



森町体験の里アクティ森の見学



アクティ森を中心とした“地域づくり”の取組を紹介していただきました。



“魅力ある森町”を創造するワークショップ



グループ発表

太田川ダム周辺の美しい水辺と歴史文化を生かした“魅力ある森町”を創造するため、以下のテーマでワークショップを開催しました。

- 【テーマ】 太田川ダムの美化活動や利活用
ダム周辺の水辺や里山を生かした“まちづくり”
小京都「森町」の歴史文化を生かした“まちづくり”

【参加者の声】

- ・現地を歩き、具体的な問題を明確にしてから、議論ができ良かった。
- ・地域の資源を様々な立場の人に見てもらうことで、その価値を再発見することができました。

・ 拝見!! 地域とつながる企業の取組 in 焼津市

「サッポロビール株式会社静岡工場」(焼津市)



工場内にある「ビオトープ園」



「ビオトープ園」の見学



「ビオトープづくり」の経緯紹介



地域貢献活動の取組紹介



グループワーク



会場との質疑応答

サッポロビール(株)静岡工場やそのOBの方から、工場内の「ビオトープ園」を案内していただくとともに、“地域への開放” “地域との協働” をテーマとした「ビオトープづくり」の“きっかけ” やその“経緯” を紹介していただきました。

また、「地域に根ざした、地域に開かれた工場」を目指して、取り組んでいる「しずおかアダプト・ロード・プログラム」による国道150号の清掃活動をはじめ、浜当目海岸や瀬戸川などの美化活動、「ビオトープ園」を利用した環境活動や地域の方々との交流活動など、様々な地域貢献活動を紹介していただきました。

【参加者の声】

- ・ “地域に開かれた工場” というスタンスが素晴らしい。
- ・ 企業も “地域の一員” であることが良く分かりました。
- ・ 企業と連携することで、地域活動に広がりを感じました。
- ・ 地域に根ざし、地域を大切にする企業を、私たちも応援していきたいと思えます。

・ 拝見!!魅力あるまちづくり in 富士市

「NPO 法人東海道・吉原宿、わき水田宿川委員会」(富士市)



富士山の湧き水が水源の“美しい田宿川”



「わき水田宿川委員会」による“川づくり”の取組紹介



「NPO 東海道・吉原宿」の方から吉原商店街を舞台にした“まちづくり”の取組を紹介していただくとともに、高校生チャレンジショップ「吉商本舗」などを案内していただきました。



グループワーク



グループ発表

かつては、悪水とヘドロの川と呼ばれた田宿川は、このような美しい川に甦りました。

これも、「自分たちの生命・財産は自分たちで守る」という強い意識を持って、40年余りの長きにわたり“川づくり”とその保全活動に取り組んできた成果だと思えます。

また、「子供たちに川を守ること、川の大切さを伝えたい」という“想い”から、啓発イベントの「たらい流し川祭り」の開催をはじめ、地元小学校との協働で、総合学習の一環としての自然観察会や水質調査を実施しています。

【参加者の声】

- ・ 実際に現場を見ることで、言葉だけでは伝わらないもの(規模、背景、活気等)を肌で感じ取り、それぞれの事例をリアルのものとして受け止めることができました。
- ・ NPO 東海道・吉原宿の取組を通じ、「多くの人に関わりやすい土台が必要」であることを学びました。
- ・ 「これからも、美しい田宿川を地域全体で守ってほしい」と思います。

「第6回協働事例発表会 / 協働の底力。」

日時：平成22年2月11日（木曜日・祝日）10時30分～16時30分

場所：もくせい会館・富士ホール（静岡市葵区）

参加者：約250人（民間120人、行政130人）

・寸劇



「協働の底力組」が“協働のイメージ”を寸劇で分かりやすく紹介しました。

この寸劇「思いこそが宝もの」の内容は、第3章でご紹介します。

・協働事例発表（午前の部）



熱海市地域活性化プロジェクト

熱海市を活性化するために、行政主導で始まった取り組みです。

地域のNPO、商工会議所、観光協会、旅館組合、漁港組合を巻き込み“魅力ある熱海”を目指して「熱海市地域活性化プロジェクト」を立ち上げました。

海上タクシーやオープンカフェなどの社会実験により、海岸部の有効活用の必要性を確認するなど、“魅力ある熱海”のイメージを共有しながら、地域と行政が力を合わせて“まちづくり”に取り組んでいます。



森町体験の里アクティ森 永田支配人(右)

清流吉川（太田川）が流れる中山間地を舞台に、道路や河川、太田川ダム周辺の美化活動や利活用を地域の方々と行政との協働で取り組んでいます。

また、地域の方々が株主となって、特産物の販売や公共施設の管理・運営を行う会社（株式会社アマガタ）を設立し、豊かな自然や歴史資源を生かしながら雇用の促進や地域の活性化につなげています。

・協働事例発表（午後の部）



本郷ふる郷普請の会

少子高齢化や農業後継者の減少が進む中で「みんなの手で！ふる郷づくり」を合言葉に、農地の保全活動や遊休農地を活用した“美しい景観づくり”、「一社一村しずおか運動」による企業を巻き込んだ“ピオトープ”の整備などに取り組んでいます。

未来を担う子どもたちの育成、まち・むら交流による地域の活性化を目指し、“むらづくり（普請）”の意識を高めながら、協働による“ふる郷づくり”を進めています。



NPO 法人 Be-club 星野副理事長(右から2人目)
清水港管理局 高橋主任(右)

清水の“海”を活動拠点に、行政と連携してクリーンアップ、イベント、体験学習などを開催しています。

こうしたイベントを通じて“街の活性化”や“人づくり”に取り組むとともに、「次の世代に清水の『美しい海』を残したい」という想いを込めて、継続的な活動を展開しています。



NPO 法人東海道・吉原宿 三浦事務局長

富士市吉原地域の商店街で、“まちづくり”の多様化を考え、地元高校生によるチャレンジショップ「吉原本舗」や途上国の商品を適正価格で販売し、利益を還元する「フェアトレードショップ」などの事業を学校、行政などとの協働で取り組んでいます。

また、「シャッターアート」や「Tシャツグランプリ」など、商店街に若者の活気を取り戻すための活動を進めています。



倉真まちづくり委員会

過去3度も地元の協力が得られず事業を断念した経緯から、住民自ら“みちづくり”に取り組むための“倉真まちづくり委員会”を組織し、行政との協働で、住民意見の集約や合意形成のための調整を行いました。

こうして悲願であった道路拡幅の一部が実現できたことを契機に、住民の意識も変化しています。

今では“みちづくり”だけでなく、この他の8つの地域課題についても、住民と行政等との協働で取り組んでいます。

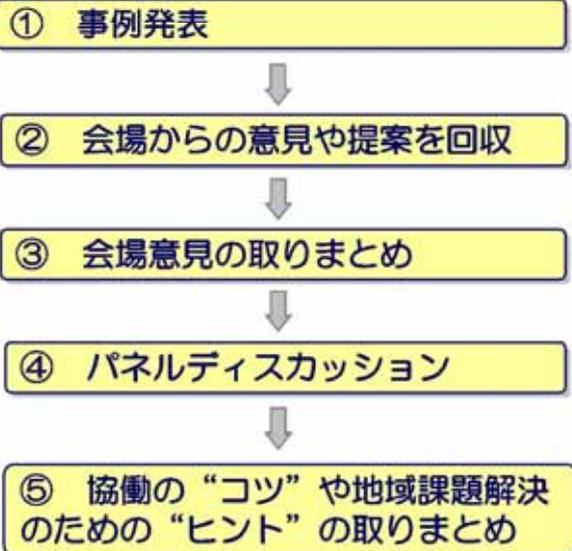
・パネルディスカッション



「協働による魅力ある地域づくりの“コツ”を探る」をテーマに意見交換しました。

事例発表～パネルディスカッションまでの流れ(1)

事例発表～協働の“コツ”、地域課題解決のための“ヒント”の取りまとめまでの流れ



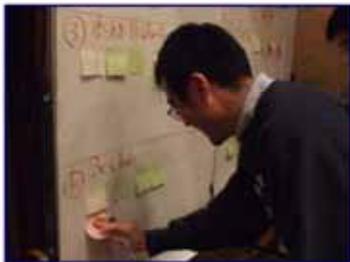
① 事例発表



1

事例発表～パネルディスカッションまでの流れ(2)

② 会場からの意見や提案を回収



会場からの意見や質問を回収

③ 会場意見の取りまとめ



底力組のメンバーによる意見の取りまとめ

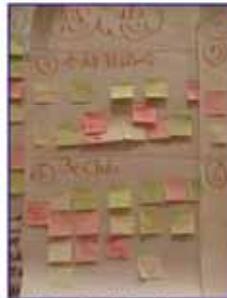
2

事例発表～パネルディスカッションまでの流れ(3)

会場の意見
(感想)



① 熱海市地域活性化プロジェクト
② 森町体験の里 アクティ森



③ 本郷ふる郷普請の会
④ NPO法人Be-club



⑤ NPO法人東海道・吉原宿
⑥ 倉真まちづくり委員会

会場の意見
(提案)



3

事例発表～パネルディスカッションまでの流れ(4)

④ パネルディスカッション



会場からの意見をパネルディスカッションに反映

⑤ 協働の“コツ”
取りまとめ



パネルディスカッションから探った協働の“コツ”や地域課題解決のための“ヒント”を底力組のメンバーが「キーワード」を中心に取りまとめ、会場に掲示

4

事例発表～パネルディスカッションまでの流れ(5)

パネルディスカッションから探った協働の“コツ”や地域課題解決のための“ヒント”を会場に掲示



・全体のまとめ

【静岡大学人文学部 日詰教授より】

企業との協働について

「ビジネスの視点、どれだけの経済効果・価値があるか」という捉え方は、企業との連携では、大きなポイントです。企業との協働では、その視点があれば発想も広がり、様々な展開が期待できます。藤枝の事例では、企業理念と地域の活動が一致することにより、企業自身が活性化していると感じました。

行政が信頼されるためには

立場を主張しないで、人として対応する姿勢があれば、分かりあう部分があります。時間は掛かりますが、丁寧な話し合いを持ち、立場を理解しあえる度量の深い関係を築くことが大切です。

活動の継続について

活動して良かったと思える“雰囲気づくり”が大切です。吉原宿の事例にあったような、“出会いの場”をつくる、“活動できる場”をつくることも大切です。“できる人が、できること”を行い、“やりたい人が、やりたいこと”をする、こうした“環境づくり”が活動を継続していくための“コツ”だと思います。

県民の皆さんへ

6年間の実績で、発表した事例も35くらいあります。県内の様々なところで、協働が行われていて“地域づくり”や“まちづくり”が進められています。地域をつくっているのは私たちであり、私たちが主役です。これからも、皆さんと一緒に、より良い静岡県をつくっていききたいと思います。

第3章 協働をはじめる前に

1 「協働による地域づくり」のイメージをつかもう

協働で魅力ある“地域づくり”を進めるためには、そのイメージをつかんだうえで、協働に取り組むことが大切です。そこで「協働の底力組」では、協働事例発表会を開催する際に「協働による地域づくり」の意義やイメージを寸劇によるストーリー仕立てで、分かりやすく紹介しています。

ここでは、平成21年度の第6回協働事例発表会で披露した寸劇「思いこそが宝もの」を紹介します。

【寸劇「思いこそが宝もの」より】

舞台は、子どもが減り、産業も農業以外は特にないとある中山間地域・・・

地域の子供が通学中、交通事故に遭います。

原因は飲酒運転でしたが、学校へ続く道には歩道がなく、両親は飲酒運転だけが原因ではないと感じていました。幸い骨折だけで済みましたが、両親には不安が残りました。



場面 1

自治会長登場

自治会長 お子さんの具合はどうか？

妻 あ、会長。ええ、骨折だけで他は大丈夫でした。

夫 いろいろとお気づかい頂いてありがとうございました。

妻 会長さんには学校でもお世話なっていると娘が言っていました。

自治会長 ああ、しめ縄づくりとか凧づくりですね。

夫 この前、それで凧上げしました。

妻 会長さんのお子さまは今、離れているのですか？

自治会長 あ、いえ、20年ほど前に亡くしまして・・・

妻 すみません、知らなくて。

自治会長 昔の事なのであまり気にしないでください。

妻 歩道があれば良かったのですが・・・

夫 以前、拡げる計画があったみたいですよ。

自治会長 そうなのだが、いろいろとあってそのままの状態で・・・

夫 そうですか・・・

自治会長 私も子どもが犠牲になるのは、申し訳なく思っています。

夫 あまりお手数をおかけするのもご迷惑だとは思いますが、話し合いとか持てますか？

自治会長 大きな事故が起こってからでは遅いとは思っていました。今、何とかしないと。行政のひとも呼んで話し合ってみます。

妻・夫 よろしくお願いします。

ナレーター

こうして行政と地域住民の会合がもたれ、事故の現場へと向かいます。



場面 2

行政職員・地元婦人・農協職員登場

行政職員 ここですか・・・

妻 ええ・・・

夫 道が細くて歩道をつくる余裕がないのです。

--しばし沈黙--

自治会長 私らはその時、地元の声を聞いてもらいたかった。

農協職員 パーンと図面を見せられてこうなりますじゃ、ちょっと・・・

地元婦人 花壇をつくりたいと思って話したら、管理するお金はないという話だったし。

自治会長 誰のための道路なのか、分からなくなって、地元も意見が分かれまして・・・

地元婦人 事故が起こる前にねえ・・・

行政職員 地元との調整というか、相談というかあっても良かったと僕も思います。
昔のこととは言え、すみませんでした。

夫 それで、これからは・・・

行政職員 計画を白紙に戻して地域の皆さんと考えたいと思っています。

妻 そんなこと、できるのですか？

農協職員 こういうのを協働って言うらしいよ。

地元婦人 きょうどう？

農協職員 協力して働くって漢字です。農協でもいろいろと協働するようになりましたよ。

自治会長 子どもらのために働くのなら、他の方も賛成してくれると思います。

行政職員 それで早速なのですが、地域で意見をまとめて欲しいのです。

自治会長 それじゃ委員会みたいなものを作ってみます。

妻 そうですよ、家を建てる時、夫と意見が合わなくて工務店の方が困ったのと同じですよ。

夫 結局、書斎ができなかった・・・

地元婦人 まあ、うちと一緒にじゃない



場面 3

ナレーター

何度か、会合を開き、現地視察と計画づくりが始まりました。回を重ねていくうちに地域の雰囲気も変わっていきました。計画づくりに足掛け三年の年月がかかって、新しい道路が完成しました。道路が広がり歩道がつくれ、カーブのスペースには花壇がつけられました。

行政職員 皆さんと記念撮影しましょう。

一同 はい。

行政職員 いきますよ。はい、チーズ

夫 行政の方も入ってください、今度は私が撮ります。

行政職員 あ、私は・・・

地元婦人 いいわよ、入りなさいよ。

夫 はい、チーズ



行政職員 ありがとうございました。僕もいい仕事ことができました。皆さんのおかげです。

地元婦人 最初の頃はきつい事言って、ごめんなさいね。

妻 この花壇は花の会の方々がこれからも管理するのですか？

地元婦人 そうですよ、あなたもどう？

妻 はい

夫 おいおい、そんなにあっさりと・・・

農協職員 こうやってきれいになると、周りの田んぼが気になるなあ・・・

妻 田んぼだったのですよね？

自治会長 昔は、米だけでなく裏作で小麦や菜の花を育てたものだよ

妻 菜の花、いいですねえ。私、大好きです。

夫 大東の菜の花まつり、良かったよなあ・・・

自治会長 ここのおばあさんが施設に入ってから手に入らなくて・・・

農協職員 農林事務所に相談してみますよ。何かの対策事業があったはずですよ。

行政職員 重機がないと大変かも知れませんね。

自治会長 そう言えば建設会社が祭りの寄付をお願いした時、地域のために何かしたいと言っていたな・・・

地元婦人 それ、それいいわよ

場面 4

ナレーター

荒れていた田んぼは再び農地に戻り、菜の花畑に生まれ変わりました。翌年には、菜の花まつりが開催されました。

餅つきや手打ちそばが振る舞われ、地域の新しいお祭りとなりました。

妻 手打ちそば、おいしいです。会長さんは何でもできるのですね。

夫 僕にも教えてもらえますか？

自治会長 今度、家に来てください。

妻 おいしいおそば、作ってね。

農協職員 菜の花の天ぷらもいいですねー

地元婦人 そうでしょ、私の愛情がこもっていますから。

妻 菜の花が終わったら、ここはどうなるのですか？

地元婦人 それは・・・全然、考えてなかった

妻 ひまわりっていうのは無理でしょうか・・・

地元婦人 いいわねー

夫 おいおい、皆さんのご迷惑になるような事を・・・

農協職員 人がたくさん来てくれれば、ここも変わるかも知れませんよ。

地元婦人 やるわよー

行政職員 道路の件があって、地域にまとまりが出てきましたよね。

自治会長 私もこういうふうになるとは正直、思わなかったです。



場面 5

ナレーター

こうして菜の花まつりとひまわりフェスが開催され、200人、400人と毎年、参加者が増えていきました。祭りには地元企業のスポンサーが付き、フリーマーケットも行われるようになりました。菜の花は菜種油となり、学校給食で使われ、ひまわりの種は菜の花まつりで販売されました。三回目のひまわりフェスの時、学生2人が訪ねてきます。



大学生A あの一、主催の方たちですよ。

自治会長 はい、実行委員会です。

大学生B 実は浜松の大学に通っているのですが、この風景を使ってアート系のイベントができればと思っています。

自治会長 アート系のイベント？ どのようなものでしょう？

大学生A 一言で言うと光のアートです。

妻 どこかの温泉まちで光を使ったイベントをやっていますよね。そういう感じですか？

大学生B ちょっと違うのですが、ひまわりが終わって菜の花を植えるまでの間、この畑で野外アート・・・

大学生A 見てもらった方が早いかも・・・

大学生B これはサンプルですが、地域の方々にお話を伺って、この土地にある力というか、思いを・・・

大学生A こんなふうにするのです。

妻 きれい・・・

農協職員 これができれば、春、夏、秋とおまつりができますね。

妻 私、協力します。チェロをやっている知り合いに声をかけてもいいですか？

地元婦人 この田舎でクラシックが聴けるなら、いいわよねー
これでも私、合唱団のマドンナだったのよ。

自治会長 若い人が来てくれるのは大歓迎です。

大学生A このイベントのきっかけは何だったのですか？

自治会長 もともとはこの道路づくりから始まって、花壇に花を植えるようになったら、休耕田を何とかしようということになりました。

妻 懐かしい風景が人の気持ちをやさしくしてくれたのだと思います。

大学生B いいですよ。僕も懐かしい気持ちになります。

妻 この光は私たちの心の火ですよ。

農協職員 光を絶やさないようにしたいと思います。

自治会長 最初に光を灯してくれたのは、このご夫婦です。

妻 え、そんな・・・

夫 自治会長の子もたちを思う気持ちがみんなを動かしたのだと僕は思います。

地元婦人 大事なものは思いよねー



行政職員 思いがこの地域の宝物ものですよね。
大学生A たぶん、どこの地域でも思いという宝物があるのでしょうか。
自治会長 思いのこもった祭りは、まつりごと、まつりごとはみんなですから祭りになる
地元婦人 要するに自分たちのことはみんなで力を合わせて、っていうことね。
妻 本当にそうですね・・・

ナレーター

その後、畑には菜種やひまわりだけでなく子どもたちや学生も作業に参加して、そばや小麦が作られるようになりました。

そば道場やパン工房の施設を地域につくりたいと、再び、行政との話し合いが始まりました。

このストーリーは県内の協働事例を参考に作成したフィクションです。これが協働による魅力ある“地域づくり”のイメージですが分かっていただけでしょか。本県の基本理念である「富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり」の実現に向けて、こうした“地域づくり”の“輪”が県内各地に広がっていくことを期待しています。



【「協働の底力組」一同より】

2 「まち歩き」で“まち”の魅力や課題を発見しよう

協働のイメージをつかんだら、「まち歩き」で自分たちの“まち”の魅力や課題を発見しましょう。

“まち”の地図やデジタルカメラを持って“まち”を散策しましょう。

あなたの“まち”にもきっと、豊かな森や水辺をはじめ、美しい街並みや田園風景、歴史を感じる建物など“まち”の魅力を再発見することができます。

こうした“まち”の魅力を地図に落とし、写真を貼り付けた「まち歩きマップ」を作成することで、まちの魅力を生かした“まちづくり”を進めることができます。

また、「まち歩き」により“まち”の課題を発見することもできます。“まち”を歩くと危険な道路や耕作放棄が進む農地、手入れ不足で荒れた里山など、地域の課題に気づくのではないのでしょうか。

道路の危険箇所を地図に落とし「交通危険箇所マップ」を作成すれば、地域の安全意識を高めることもできます。

第4章の「協働事例の紹介」では、地域の課題解決に向けた具体的な取組事例を紹介しています。あなたの“まち”でも、地域の課題解決に向けて協働による“地域づくり”に取り組んでみてはいかがでしょうか。

さあ、皆さんも地図を持って「まち歩き」に出かけましょう。



「松川の親水計画づくり」に向けた松川沿いの“まち歩き” (伊東市)

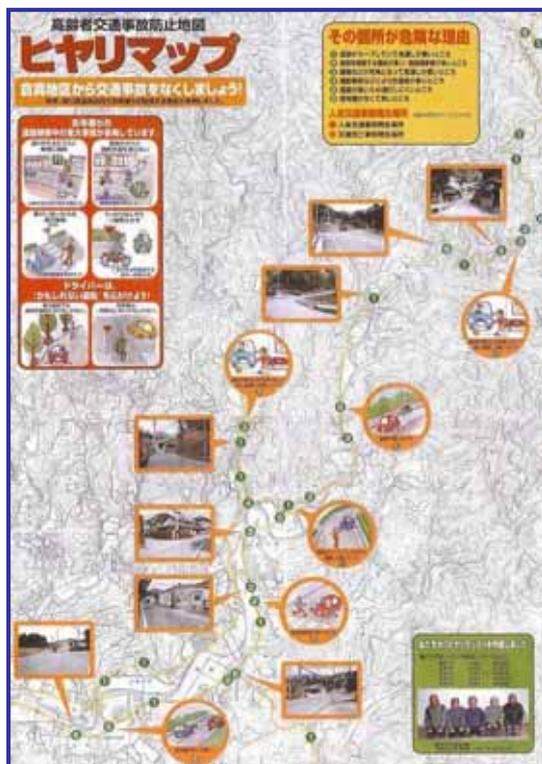


豊かな自然や美しい田園風景など、地域の魅力を再発見するための“まち歩き” (森町)



「新居宿まち歩きマップ」裏面

【交通危険箇所マップの作成例】



掛川市倉真地区の方々が作成した「ヒヤリマップ」

【地域マップの作成例】



東海大学の学生と沼津市浮島地区の方々が作成した「うきしまっぷ」